

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372700641		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホーム にこにこだいとう		
所在地	〒029-0431 岩手県一関市大東町猿沢字板倉60-1		
自己評価作成日	令和4年9月18日	評価結果市町村受理日	令和5年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍という状況の中、安定した事業運営を継続する為に施設内でのコロナウイルス感染症予防には十分に気を付けております。成果としては法人内でも事業所内でもクラスターが発生することなく運営を維持しております。また、以前のように地域活動に参加が出来ない現状ですが、その分を個別レク活動に力を入れており、季節折々の手作り装飾品を作成したり、ペランダでお花や食物(トマト・ピーマン)を栽培したりと、家庭の日常生活を利用者様と職員と一緒に参加して送っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、2階建の旧国保診療所の2階スペースを改修して開設されたものである。一階スペースも同運営法人が改修して、デイサービス事業所として運営している。新たな国保診療所(かかりつけ医)も事業所に近接して設置され、医療と福祉に関係する事業所が一体的に設置されたことにより、利用者の診療や緊急時の適切な処置等の緊密な連携が図られている。利用者は、デイサービスの利用者などとも交流を重ねながら、笑顔の絶えない楽しい日々を過ごしている。地域行事の中止や外出制限が続いてきた中でも、春と秋には事業所前で園児の歌の披露、敬老会には小学生の集合写真のプレゼント、施設の建物を利用した児童クラブの開設等で、遠目ながらも子供たちと触れ合うことができたことは何よりも得がたい交流になったと言える。昨年、建物の一部を利用して開設した「児童クラブ」を通じた地域との触れ合いが、他の範となることが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念である「ホスピタリティ精神」を軸として支援に努めている。また、勉強会・研修会を実施し知識・技術向上に向けた取組みにも努めている。	事業所の理念「ともに笑い、助け合い、ゆとりをもって生活して行きます」をより具体的なものにと、職員皆で話し合い「今日も笑ったな楽しかったなと皆が思えるようサポートする」を令和4年度の事業計画に盛り込んでいる。日々の申し送りやケアプランの振り返りの場合にも、これらを基本に据え、職員全員で共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で、地域社会との交流が難しい状況が続いており、以前のような形での地域交流が出来ていないのが現状である。地域から敬老会の記念品は頂き、繋がりは継続している。	春と秋には事業所前で保育園児20名程による歌の披露があり、2階のベランダから利用者が笑顔で手を振ったり、敬老会には小学生の集合写真と手紙の贈り物をいただくなど、利用者の元気づけになっている。昨年建物の一部を利用して、長期休み期間限定で児童クラブを開設し、庭で遊ぶ子供たちの元気な姿を見られるようになっている。	グループホームに児童クラブを併設する取り組みは県内初めてのものであり、先駆者として多くの果実を事業所はもとより、広く地域の方々にもたらされることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流が難しい状況の中で唯一地域へ発信出来ているのは「運営推進会議資料」での報告になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年度もコロナ禍の現状を踏まえ、集まったの会議は中止とし、「運営推進会議資料」送付での報告となっている。市から派遣して頂いている担当者様とは相談や意見交換を実施している。	運営推進会議のメンバーは、地域包括支援センター、自治会長、住民代表、家族・利用者代表、法人代表、管理者で構成されているが、コロナ禍以降2年程書面開催としている。委員の意見などは電話等でいただくようにしている。特に、委員から意見等はないが、労いの言葉は多く寄せられている。メンバーの内3名は防災協力隊であるが、訓練への参加もコロナの影響で控えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	一関市広域行政組合や、市の福祉課担当者様に電話等で相談やアドバイスを仰いだりしている。	市の担当者とはオンラインや書面でやりとりし直接出向くことは少なくなったが、対応は親切丁寧で気軽に相談でき良好な関係にある。広域行政組合の担当者は事業所の近くに住んでおり、必要の都度直接会って話をしている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としての新たな取り組みとして、各事業所の垣根を越えた委員会を立ち上げ、毎月勉強会や委員会活動を実施している。またそれを、全職員に展開している。玄関の施錠は夜間のみとし、日中は解除している。	3ヵ月毎に法人内各事業所の管理者による身体拘束適正化委員会が開催され、委員会の内容はケアミーティングなどで周知徹底している。10月にはオンラインによる外部講習を全職員が受講できるよう計画している。スピーチロックに抵触するような禁止用語を事務所に掲出し注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人としての新たな取り組みとして、各事業所の垣根を越えた委員会を立ち上げ、毎月勉強会や委員会活動を実施している。またそれを全職員に展開している。昨年度はオンラインでの勉強会も実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人としての新たな取り組みとして、各事業所の垣根を越えた委員会を立ち上げ、毎月勉強会や委員会活動を実施している。またそれを、全職員に展開している。昨年度はオンラインでの勉強会も実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明時には分かりやすく説明をし、ご理解・ご了承の言葉とサインは頂いている。また、不明点の箇所に対しても、電話等で対応し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍ということで面会は中止している状況の中、直接対面で意見を頂く機会は減っているが、電話や受診対応時の短い時間等で意見を頂いたり、相談させて頂いたりしている。	家族の意見は受診時、電話、ラインで把握しており、事業所の運営には「信頼しています。おまかせします」と特段の意見は寄せられていない。利用者に関しては、季節の変わり目や受診時には「それなりの衣服を着せてほしい」などの要望がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する報告は毎月のミーティングや日々の申し送り等で定期的に展開している。また、個人面談では職員からの意見・質問を頂き、運営に活かしている。	職員の年代は30代から60代まで幅広いが、チームワークや職場内での風通しはともに良く、ミーティングや申し送り時などには意見も多い。また普段の会話の中でも意見や提案を聞く機会が多く、電化製品の新規購入や日用品の補充などを具体化している。管理者は年数回は職員と個人面談を行い、職員の意見要望を業務に活かしている。	

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況等を確認しシフト作成に努めている。また、事業所内・法人内の各委員活動に職員は参加し、各々の立場で職場・業務の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務やミーティング時にて、状況に応じたケアの指導を実施している。また、法人としても座学や実技研修も実施し取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍という状況の為、積極的に外部との直接的な交流は控えているが、電話やSNSなどを活用し情報交換はしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人やご家族様から要望や相談を伺ったり情報提供票や主治医意見書からの情報の把握に努め、安心して生活ができるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と情報を共有し、利用者様やご家族様が安心して生活できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・担当ケアマネ・主治医意見書からの情報を参考に、ご本人の状態を観察しながら必要な支援を精査し、務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活習慣や経験を尊重し、施設での生活でも継続出来るよう、または、活かせるよう支援に努めている。		

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、直接対面での面会は中止または制限しているが、オンライン面会やSNS等を活用し、交流の機会を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の理髪店様に定期的に散髪に来て頂いている。また、近くの産直店へ散歩がてら出掛けている。	コロナ禍が拍車をかけ年々馴染みの関係が少なくなってきたが、職員はアセスメントなどから、かつての馴染みを探そうと努めている。事業所の近くにある理髪店とは馴染みの関係を継続している。医療機関受診は家族の同行を基本にして、家族との関係を切らさないようにしている。外出制限が解除され1階のデイサービスに遊びに行けることを一刻も早く実現したいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介し、利用様同士の会話の場を設けたり、レク活動や家事等を通して関係性を構築している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されたご家族様とお会いした際には近況を伺ったり、必要とされた場合には相談にも乗ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日々の会話や行動から想いを汲み取り対応している。困難な事案の場合はケアミーティングで、または関係各所に相談し検討している。	多くの利用者は自分の思いを伝えることができ、廊下のモップ掛け、プリンターの管理、洗濯・食事の手伝い等、利用者がやりたいことを普段の生活の中で活かしている。職員は、利用者の主体性を重視し無理強いしない対応を共有しながらケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様、または情報提供票等から情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿った支援を行うことで、出来る事・出来ない事を精査・検討し、現状の把握に努めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアミーティングで職員から情報や意見を収集し、主治医やご本人・ご家族様の意見なども取り入れながらケアプランを作成している。また、気付いた事は即精査・検討し、実践している。	ケアプランの見直しは3ヶ月毎を基本にしており、毎日の申し送りや居室担当者及びミーティングでの職員の意見等が反映され、家族の同意を得た上で新たなプランへ移行している。入居前は車椅子生活の利用者が入居後に車椅子無しで歩行生活をしている改善例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で介護記録を記入しており、申し送りやミーティングで情報共有しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のご要望に出来る限り対応出来るよう、ご家族様のご協力を得ながら実施している。また、受診対応や生活用品の買い物で、ご家族様に都合がつかない場合には、柔軟に施設で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ということで積極的な地域交流は自粛しているが、オンラインでの参加は出来る環境整備は準備している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様に要望を尊重し、掛かりつけの医療機関にて受診して頂いている。また、場合によっては職員も同行し対応している。	利用者の半数以上が隣接する国保診療所をかかりつけ医としており、その他は入居前からの医院に通っている。受診は家族の同行を基本にしており、受診時に必要なバイタル等を家族用と主治医用に分けて手渡している。管理者は、週1回ボランティアの看護師が利用者の健康状態を診るために訪れてくれるのが心強いとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師により定期訪問にて、利用者様の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。また、利用者様に変化が生じた場合には適切な処置が受けられるよう支援している。		

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には情報提供をし、入院中は状態把握の為に医療機関との連携に努めている。また、退院後の支援方法を主治医やご家族様と相談・検討し、方針を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時の際にご家族様に説明をし「重度化・看取り」に関する同意書にサインを頂いている。また、毎年事業所ではターミナルケアについての研修を実施し、共有に努めている。	重度化した場合は、医師の意見や家族の意向に添って対応することとしている。事業所内での看取りについては、入居前に看取り指針を家族に説明し同意を得ているが、これまで事業所での看取りはない。事業所内での看取りに理解を示してくれる医師もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて救命救急講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練や夜間想定避難訓練を実施している。また、非常食品や備蓄品なども定期的買い揃えている。※コロナ禍の為、地域住民様の訓練参加は中止している。	年1回、1階のデイサービスと合同で総合避難訓練を実施しており、2階の利用者は水平移動訓練とし火元から遠い煙の及ばない所へ逃げることを先決としている。コロナ禍前は運営推進会議メンバーや地域の方の応援もあったが2年程参加を控えている。ハザードマップでの指定はなく、災害時には事業所の周辺地域が避難所に指定されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の想いを尊重し汲み取り、支援に努めている。また、声掛けや介助で不適切な支援が無いようにミーティング時や日々の業務の中で指導している。法人としても勉強会を実施している。	好きなこと、したいことに耳を傾けながら、利用者の職歴、特技、趣味等をケアプランに活かし、主体性を重視した無理強いしないケアに努めている。トイレや入浴等、利用者のプライバシーに関わるような場合は羞恥心に配慮した声掛けとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや筆談等で利用者様の想いを聞き出し汲み取り、自己決定が出来る支援に努めている。また、想いを表現しにくい利用者様に対しては幾つかの選択ができる状況を準備し対応している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調や気持ちを尊重し、職員本位の支援や介助にならないように心掛け支援している。また、権利擁護などの研修も毎年実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様には衣類の選択をして頂いたり、毎日の整容で身だしなみの支援を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食材の下ごしらえをしたり、盛り付けや食器洗い・食器拭きなど家事にも参加して頂いている。また、行事等ではいつもとは違う献立を計画し支援している。	7～9月の3か月間ほど、試行的に朝、昼、夕の3食とも外注したが、10月からは夕食の副食のみの外注としている。メニューは季節の食材を重視し、誕生会等の行事では利用者から「何を食べていか」などの希望をとり「刺身を食べてい」等の希望にも沿うようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量や食事摂取量を記録し、体調管理をしている。また、体調や状況に合わせて食事形態を工夫し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアへの声掛けや誘導を実施している。また、必要に応じて口腔ケア介助も実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存能力や状態を考慮しながら出来るだけトイレでの排泄を促している。また、訴えが無い利用者様に対しては定時誘導にて対応している。	昼夜ともにトイレ利用を基本としており、排泄チェック表を活用しながら4時間程利用が無い場合は声掛けし対応している。利用者の3名はパンツ使用、その他はリハビリパンツ使用である。L字型の建物で死角があるため夜間の動きがわかるよう廊下にセンサーを設置し、安全安心の確保に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品飲料や水を提供し便秘予防に努めている。また、毎日の排泄記録を参考にし、定期受診時に主治医に相談して下剤を処方して頂いたり対応している。		

事業所名 : グループホーム にこにこだいう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調や気分、または入浴希望に柔軟に対応し実施している。また、状態に応じて洗身洗髪支援に努めたり、皮膚状態を確認し必要とされる処置にも対応している。	入浴は1日3人サイクルで午前、午後の好きな時間に入浴でき、入浴前には、脱衣所を暖めるなど環境を整えてから気持ちよく入浴できるよう心掛けている。入浴を嫌う場合は「背中に薬を塗るよ」などと声掛けして対応している。入浴剤は3種類を用意し温泉気分を味わい、歌いながら湯船に浸かっている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レク活動や家事など、日中は1人1人に合わせた活動を促し夜間は良眠出来るよう努めている。また、必要な場合にはご家族様・主治医に相談し眠剤を処方して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬の効能を理解・把握し必要な場合は介助支援している。また、誤薬や飲み忘れが無いように服薬チェック表を活用し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレク活動等に参加して頂き、その中で出来る事出来ない事を精査しながら、一人一人にあった生活支援に務めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、全員での外出は自粛しているが、個別対応で施設周辺での散歩・買い物支援に努めている。	以前のようにドライブ等での外出は出来ない。散歩時に事業所前の産直を覗いたり、近くのコンビニでの買い物や家族同行の受診が、数少ない外出の機会になっている。天気の良い日にはベランダでプランターいじりや外気浴を楽しんでいる。近くの桜の木の下で花見をした時の利用者の満面の笑顔が写真に収められている。	コロナ禍ではあるが、感染防止に最大限配慮しながら、少人数でのミニドライブなどで、利用者の気分転換、ストレス解消につなげられることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の預り金制度は廃止しており、必要される物がある場合にはご家族様に対応して頂いたり、職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて利用者様とご家族様との電話仲介支援をしている。また、タブレットを活用してテレビ電話での支援もしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダやホール内にお花のプランターを設置し鑑賞や手入れをして頂いたり、ホール内には季節を感じる装飾を施している。また、カーテンやエアコンなどで光量や室温を調整し、過ごしやすい環境整備支援に努めている。	窓越しに明るい光が差し込むホールは広々としており対面式の厨房の脇のニコニコ画廊には敬老会で小学生からプレゼントされたクラス別の集合写真が掲げられている。ホールの窓からは長く親しんできた風景が望め、所々には季節の花が飾られ気持ちを和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールなど数か所にソファを設置したり、ベランダにも椅子を設置しお好みの場所で過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるよう出来る限りの範囲でご本人の意向に任せている。また、エアコンやカーテンでの調整で居室内環境を支援している。	6畳ほどの広さの居室には、介護用ベッドやエアコン、クローゼット付のタンスが備え付けられている。自宅で使い慣れ親しんだテレビや時計、故人の遺影や家族写真など、思い思いに好きな場所に置いたり飾ったりして、利用者それぞれに暮らしやすいよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況や状態に応じて環境整備に努め、申し送りやミーティング等で検討・精査し施設内のリスクマネジメントを実施している。		